

5団体連携で寄付募集 宮城の被災地支援の活動費に

東日本大震災の支援に取り組む宮城県の5団体が連携して、活動資金を募る取り組みを始めた。震災から2年以上が経過し、被災地寄付の動きが鈍る中で、まとまって支援の必要性を訴え、情報発信することにした。

参加するのは①子どものストレスを軽減する仙台市の「ダンス幼稚園実行委員会」②石巻市の子どもらが新聞発行に挑戦する「キッズ・メディア・ステーション」③若者の就労を支える仙台市の「Switch（スイッチ）」④気仙沼市などの外国人妻らに日本語教室を開く「笑顔のお手伝い」⑤亘理町などで高齢者を見守る「亘理いちごっこ」——の5団体。

震災後に設立され、支援団体への助成などを手掛ける「地域創造基金みやぎ」（仙台市）が対象団体を公募。事業の必要性や団体の信頼性から選んだ。寄付は1口5000円から受け付けており、応援したい団体を選べる。

「5団体に取り組むテーマや対象の世代はそれぞれ違っており、宮城県全体が抱える課題を知っていただく機会にもなる」と基金の鈴木祐司常務理事(35)。問い合わせは地域創造基金みやぎ(022・748・7283)。

震災支援への寄付を呼び掛ける5団体の代表ら＝仙台市で



いわき市が被災地スタディツアー

福島県いわき市は、震災の津波と火災で大きな被害を受けた沿岸部を中心にバスで回る「被災地スタディツアー」の参加者を募っている。被災した語り部から体験や教訓を聞き、今後の減災、防災に役立ててもらおうと企画した。

開催は6月8日、11日、22日。集合場所と時間は、JRいわき駅に午前9時35分、市石炭・化石館「ほるる」に午前10時。中型貸し切りバスで、灯台、商店街、自動車工場などを回り、午後4時ごろ解散する。

募集人数は1回25人。参加は無料だが、昼食代は自己負担。「いわき復興支援・観光案内所」のホームページ<http://iwaki-revival.com/tour/index.html>から用紙を取り出し、ファクスで申し込む。問い合わせは同案内所(☎0246・80・2051)。

福島県からの避難者のコミュニティを茨城県土浦市でつくった四井康子さん(35)。「夫の転勤で福島県郡山市にいる時、震災に遭いました。放射線への不安から、慌てて子ども3人と自宅のある土浦市に『自主避難』しました。自宅とは

声
被災者から

●茨城

母ならではの苦悩を共有

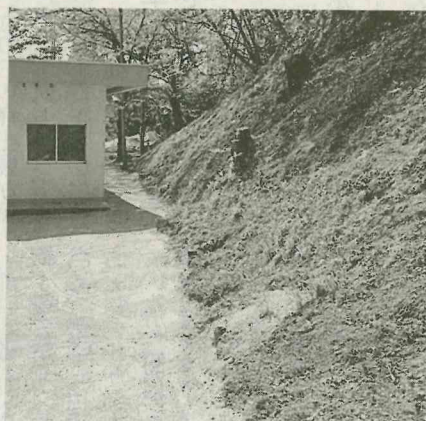
いえ、家財道具が一切ない空き家です。行政や民間団体に支援を求めても『単なる引っ越し』としか扱われず、しんどい思いをしました。子どもの健康調査も自分で受けざるを得ない。健康調査は『必要ない』と言う人もいますが、本当にそうでしょうか。寂然としました。昨年7月、福島から土浦に避難している6家族が集まり、茶話会を通じて情報交換する『ふくしまキ

ズ・カフェ』をつくりました。それぞれ境遇は違いますが、我が子を心配する母の気持ちは共通です。時として長く続けていきたいに涙を流して経験を語り合いです」【鈴木敬子、写真も】



①②③違う表情のコットンベ
イブ④コットンベイブを作る被災
者の女性ら＝福島県いわき市で

1)かメール(thepeople@email.plala.or.jp)。(中村かさね)



ヒーローの仕事場。表土がきれいに
はぎ取られている＝福島県内

うにない。「『苦労様』と声をかけられることもまずなく、待望されているムードを感じない。「金はどうでもいいんだけど、4次の下請けだから日給1万円。老人と相部屋に押し込められ、同僚はパチンコ、アルコール依存症ばかり。大学出たての若い現場監督に『早くしろー』ってどやされるし」。イメージと違う現実を愚痴りはするが、絶望はしていない。【藤原章生、写真も】

二 ーズ情報

■ふくふくプロジェクト
(福島市)

す。
この欄での掲載は最終回と